抜粋

第３次佐伯市総合計画策定に関する市民ワークショップとりまとめ

令和８年 10 月

佐伯市

Ⅰ　市民ワークショップの概要

1　実施の目的

本ワークショップは、市の将来像や施策の方向性を定める「第３次佐伯市総合計画」（計画期間：令和 10 年度～令和 16 年度）の策定にあたり、市政運営や各施策に対する市民の意見及び提案を広く把握し、計画づくりの基礎資料とすることを目的として実施しました。

2　ワーク内容

佐伯市の魅力（強み）、課題（弱み）、目指したい８年後のまちの姿（将来像）を軸に、５種 23 回のワークショップを開催しました。

地域別開催では、上記に加えて将来像の実現に向けて必要なことや自分や地域、行政に何ができるのかを検討いただきました。

そのほか中学生・高校生ワークショップでは、将来像実現に向けて必要なモノやコト、産業ワークショップでは、強みを生かした取組や弱みを改善するための取組を伺い、広く多くの市民の声を伺いました。

全体会（キックオフ）
１．佐伯市の強み
２．佐伯市の弱み
３．８年後の将来像

全体会（クロージング）
１．佐伯市の現状、将来像
２．将来像案に対する意見
３．大事にしたいキーワード

地域別開催分
１．佐伯市の強み、弱み、８年後の将来像
２．将来像実現に向けて必要なこと
３．将来像実現のために、 自分や地域ができること、行政ができること、地域や行政が協力してできること

中学生・高校生ワークショップ
１．佐伯市の強み
２．佐伯市の弱み
３．８年後の将来像、将来像実現に向けて必要なモノ・コト

産業ワークショップ
１．佐伯市の強み、佐伯市の「強み」をいかした取組
２．佐伯市の弱み、佐伯市の「弱み」を改善する取組
３．８年後の将来像

3　実施概要

実施時期	実施内容	場所
令和８年７月４日（土）	全体会（キックオフ）	さいき城山桜ホール　小ホール
令和８年７月 16 日(木)	地域別開催（佐伯地域）	佐伯地域コミュニティセンター
令和８年７月 16 日(木)	地域別開催（米水津地域）	米水津地域コミュニティセンター
令和８年７月 17 日(金)	地域別開催（青山地域）	青山地域コミュニティセンター
令和８年７月 17 日(金)	地域別開催（本匠地域）	本匠地域コミュニティセンター
令和８年７月 23 日(木)	地域別開催（渡町台地域）	渡町台地域コミュニティセンター
令和８年７月 23 日(木)	地域別開催（西上浦地域）	西上浦地域コミュニティセンター
令和８年７月 24 日(金)	地域別開催（直川地域）	直川地域コミュニティセンター
令和８年７月 24 日(金)	地域別開催（八幡地域）	八幡地域コミュニティセンター
令和８年７月 27 日(月)	地域別開催（木立地域）	木立地域コミュニティセンター
令和８年７月 30 日(木)	地域別開催（弥生地域）	弥生地域コミュニティセンター
令和８年７月 30 日(木)	地域別開催（鶴岡地域）	鶴岡地域コミュニティセンター
令和８年７月 31 日(金)	地域別開催（上浦地域）	上浦地域コミュニティセンター
令和８年７月 31 日(金)	地域別開催（下堅田地域）	下堅田地域コミュニティセンター
令和８年８月６日（木）	地域別開催（佐伯東地域）	佐伯東地域コミュニティセンター
令和８年８月６日（木）	地域別開催（上堅田地域）	上堅田地域コミュニティセンター
令和８年８月６日（木）	中学生・高校生ワークショップ	佐伯市役所
令和８年８月７日（金）	地域別開催（宇目地域）	宇目地域コミュニティセンター
令和８年８月８日（土）	地域別開催（大入島地域）	大入島地域コミュニティセンター
令和８年８月 21 日(金)	地域別開催（鶴見地域）	鶴見地域コミュニティセンター
令和８年８月 21 日(金)	地域別開催（蒲江地域）	蒲江地域コミュニティセンター
令和８年８月 26 日(水)	産業ワークショップ	佐伯市役所
令和８年８月 29 日(土)	全体会（クロージング）	さいき城山桜ホール　小ホール

【全体会_キックオフで出た意見のまとめ】

①産業振興・雇用創出分野：地場産業の魅力の最大限の活用と多様な働く場の確保

水産業や造船業、農林業などの強い基幹産業が存在し、豊かな食材や高い技術力があることが佐伯市の大きな強みとして再確認されました。一方で、若者が希望する職種（正社員枠の確保や新産業の創出など）の選択肢が乏しく、進学・就職時の市外流出について意見が挙げられました。

一次・二次産業の強みをいかした高付加価値化や新ブランド開発、起業・創業支援を強化するとともに、サテライトオフィスや企業の誘致を進め、若者が市内に留まり、U・I ターンしたくなる魅力的な雇用環境を整えることが求められています。

②交通インフラ・都市整備分野：広大な市域に対応する移動支援と機能の集約

九州一の広大な面積を有する佐伯市において、交通アクセスの不便さとインフラ維持コスト増が最大の弱みとして挙げられました。公共交通の減便等に伴う、免許を持たない高齢者や中高生などの移動手段の確保についても意見が挙げられました。

８年後を見据え、デマンド交通や AI・自動運転技術を活用した持続可能な移動支援体系を構築するとともに、中心市街地のコンパクト化と各地域コミュニティ間のネットワーク強化等を図ることが求められています。

③子育て支援・学校教育分野：次世代を育む環境整備と多様な学びの拠点化

医療費無償化をはじめとする手厚い支援やこどもたちの素直さなどが魅力としてあげられる一方で、屋外・屋内で安心して遊べる大型施設や全天候型の居場所が少ない点が課題とされました。また、市内での高等教育機関（大学等）を求める声も多く挙がっています。

地域全体でこどもと保護者を支える体制を強化しつつ、放課後児童クラブの充実や魅力的な教育コンテンツの導入、若者が夢を叶える挑戦や学びの場を整備することが求められています。

④保健・医療・福祉分野：健やかに暮らせる包括ケアと医療体制の維持

「元気に活動する高齢者が多い」という強みがある一方で、少子高齢化や一人暮らし高齢者の増加に伴い、身近な見守りや医療・介護体制への不安が示されました。特に、夜間や緊急時の医療体制、小児科・専門医の確保が課題です。

高齢者の健康寿命を伸ばす予防・健康づくりの推進やサロン活動の拡充に加え、地域包括ケアシステムの強化と安心して医療・福祉サービスを受けられる体制づくりが求められています。

⑤地域コミュニティ・共生社会分野：助け合いの循環と開かれたまちづくりの推進

市民の温かい人情や近所付き合い、地域活動の活発さは佐伯市の大きな魅力です。しかし、地域の担い手不足や近所付き合いの希薄化も懸念されています。

有償ボランティアや助け合い循環の仕組みを整え、多様な世代が自然に交流できる憩いの場（お茶の間やコミュニティ拠点）を拡充することが求められています。また、増加する外国人住民や移住者との交流・共生を進め、誰もが居場所と役割を持てる地域社会を形成することが求められています。

【地域別開催分で出た意見のまとめ】

１．全体傾向と地域間ギャップの概要

19 地域すべての地域別開催分において、「海・山・川の豊かな自然と美味しい食」「地域の温かい人情」が共通の強みとしてあげられる一方で、旧市街地（中心部）と旧郡部（周辺地域）との置かれた環境の違いによる「地域の切実な課題感の差」が現れました。

①旧市街地・周辺市街地（佐伯、渡町台、鶴岡、佐伯東、八幡）

空き家・空き店舗の増加、コミュニティの希薄化、こどもや若者が集える場・娯楽の少なさ、子育て支援の強化を求める声が多く見られました。

②沿岸部・離島（米水津、西上浦、上浦、大入島、鶴見、蒲江）

水産業の衰退・後継者不足や温暖化の影響への懸念、フェリーを含む交通アクセスの維持、津波・南海トラフ地震への防災・避難路整備、医療アクセスが最優先課題として挙がりました。

③山間部・内陸部（青山、本匠、直川、弥生、木立、上堅田、下堅田、宇目）

鳥獣害被害（イノシシ・シカ）、休耕田や山林の荒廃、一次産業（農業・林業）の担い手不足、日常の買い物や通院などの移動手段の不足、集落の維持に対する強い危機感が示されました。

２．行政分野別・地域差を踏まえた施策の方向性

①交通インフラ・地域移動分野：地域の地理的特性に応じた移動手段の整備

地域の意見差や特徴としては、市街地では「佐伯駅周辺へのアクセスや路線バスの使い勝手」が話題となる一方、山間部（本匠、宇目、青山）や沿岸部（米水津、蒲江）では「バスの路線縮小・日曜運休」「車がないと医療や買い物に行けない」といった切実な声が寄せられました。大入島では「フェリー・船便の減便や夜間便の補助・維持、将来的な架橋」が最重要テーマとなりました。

施策の方向性としては、全一的な路線バス維持にとどまらず、デマンドタクシー、有償ボランティア送迎、コミュニティバスの柔軟な運行、海上交通への支援など、各地域の生活実態に合わせた持続可能な移動支援体系の構築が求められています。

②産業振興・一次産業分野：地域資源（海・山・農）の再定義と基幹産業支援

地域の意見差や特徴としては、沿岸部（蒲江、米水津、鶴見、上浦）では漁業権の活用、養殖業や水産加工の振興、佐伯版唐戸市場のような観光・水産拠点の構想や高値取引の仕組みが議論されました。山間部（宇目、直川、本匠）では、因尾茶や米のブランド化、農林公社の強化、新規就農・林業担い手確保、鳥獣害対策の強化が強く要望されました。また、旧市街地周辺（佐伯、下堅田、上堅田）では企業誘致や新事業（シェアキッチンや起業）への期待が示されました。

施策の方向性としては、海洋・森林・農地という地域ごとの独自の基幹産業を維持・強化するための資金・人的支援体制を整え、６次産業化や新規就業者・移住者の受け入れマッチングを推進することが求められています。

③防災・安全安心分野：地域リスクに応じた防災拠点・避難体制の強化

地域の意見差・特徴としては、沿岸部・平野部（西上浦、佐伯東、米水津、蒲江）では、津波到達時間の短さに対する恐怖、避難タワー・高台避難路の整備、水害・高潮対策が強くあげられました。山間部（本匠、直川）では、土砂災害や河川の氾濫、道路寸断による「集落孤立化」の防止（バイパス整備や四駆消防積載車、非常用電源・通信の確保）が主要課題となりました。

施策の方向性としては、津波リスク地域と土砂災害・孤立リスク地域で優先すべきハード・ソフト対策を切り分け、地域の消防団や自主防災組織と連携した地域密着型の防災・減災計画を推進することが求められています。

④生活環境・買い物支援分野：日常の買い物・空き家・インフラ管理の課題対応

地域の意見差・特徴としては、直川、青山、木立、宇目などの山間部では、地域からスーパーや商店が消滅したことによる「買い物難民」問題が深刻化しており、移動販売車（とくし丸等）の増便や拠点ショップの設置が求められました。また、旧市街地・周辺集落（佐伯、八幡、木立）では、管理されない「放置空き家・空き店舗」の利活用や撤去、草刈り作業の負担増が共通の悩みとして挙げられました。

施策の方向性としては、移動販売や地域の拠点づくりへの支援、空き家バンクの制度拡充・リノベーション補助を推進するとともに、地域内での草刈りや環境保全に対する有償ボランティア・交付金の活用を強化することが求められています。

⑤子育て・教育・医療福祉分野：身近な医療・交流拠点と子育て支援

地域の意見差・特徴としては、佐伯、鶴岡、渡町台などの人口集中地域では、放課後児童クラブの増強、公園・遊具の整備、夜間小児医療の確保など「子育て環境の質の向上」が中心となりました。一方、周辺部（上浦、米水津、宇目）では、学校の統廃合に伴うコミュニティの空洞化への不安や「小規模特認校」などの特色ある教育支援、身近な専門医・身近なサロンの存続が重視されました。

施策の方向性としては、こどもの医療費や教育費の支援を全市的に継続・強化しつつ、周辺地域においては学校跡地を地域の複合交流・福祉拠点として活用するなど、地域に根ざした包括的ケアと教育環境を維持することが求められています。

⑥地域コミュニティ・協働分野：行政と地域の「橋渡し」と自律的な組織づくり

地域の意見差・特徴としては、各地域に整備されているコミュニティ協議会の活動状況や温度感に差が見られました。直川や弥生、本匠、蒲江などでは「地域独自のイベントや防災・移動支援をコミュニティ協議会が主体となって進めたい」という意欲が高い一方、「地域の役員やリーダーの後継者不足」「行政の縦割り対応や予算の使い勝手の悪さ」に対する指摘も多く出されました。

施策の方向性としては、行政の地域担当職員の配置や地域おこし協力隊・若い世代の参画を促すとともに、地域が使いやすい「自由度の高い地域支援交付金」の創出や、行政と市民がフラットに対話できる対話の場を継続的に設けることが求められています。

参考資料：各地域の主な特徴的な意見

１．19 地域全体的に共通する意見等

（魅力）

●豊富な食資源と多様な自然環境：新鮮な海鮮（魚・寿司）、番匠川の名水、米・しいたけ・ジビエなどの豊かな食資源。海・山・川が身近にある豊かな自然景観。

●基幹産業と地域の伝統：造船業、水産業、農林業などの強い産業基盤、城下町の歴史や各地域の伝統芸能。

●人の温かさと助け合い： 住民の人情味、挨拶運動の定着、地域での助け合い（共助）の精神。

（課題）

●交通インフラの不便さ：広大な市域でありながら車がないと生活しづらい環境、公共交通（路線バス・JR・船）の減少やダイヤの不便さ。

●若者の流出と働き口の不足：進学に伴う若者の市外流出、魅力的な企業や多様な職種の不足。

●地域基盤の維持コスト増大：空き家や耕作放棄地の増加、害獣（シカ・イノシシ）・害虫被害、草刈りや道路整備など管理負担の増大。

２．19 地域の主な意見等

地域名	意見の特色	地域が抱える特徴的な課題
佐伯	・市の中心拠点としての都市機能や城山・城下町の歴史がある ・番匠川の名水、美味しい郷土料理が充実 ・造船業をはじめとする数社の工場・地場産業が頼もしい	・市域が広すぎるため中心部としての明確さや統一感が希薄化（まとまりがない） ・商店の減少、飲食店街の人通り減少 ・史跡や豊富な水・空き家などの地域資源をいかしきれていない
米水津	・国内有数の水産加工業および造船業の集積 ・海の幸、山の幸、釣りの聖地、350 種以上の豊富な魚 ・のんびりとした雰囲気。過ごしやすい気候、親切な人柄、充実した子育て支援	・急激な人口減少、若者の流出、地域を守る人材の不足 ・空港や主要道路からの遠さによる交通、物流面での不便さ ・中高生の居場所不足、公園や観光地の管理・整備不足
青山	・海の幸、山の幸、美味しい米、きれいな水、空気などの自然の恵み ・クマが出ない、大雪が降らない、風水害が少ない安全な環境 ・歴史と文化の誇り、のんびりした住みやすい風土	・旧南郡と旧佐伯市との補助金、行政支援の格差への不満 ・若い人が卒業後に市外へ出ていく、魅力的な企業の不足 ・農業の担い手不足、廃校や使われていない施設の増大
本匠	・清流、番匠川をはじめとする豊かな自然景観とマリンアクティビティ ・しいたけ、林業、魚などの豊かな農林水産物と美味しい食 ・素直で人情豊かな住民性	・急激な人口減少と高い高齢化率、空き家の急増 ・鹿や猪による農作物被害の深刻化と農林業の担い手不足 ・市内、他地域への移動手段（バス等）の乏しさ

地域名	意見の特色	地域が抱える特徴的な課題
渡町台	・海、山、川の恵み、豊富な食材（地の野菜・魚）、グルメの魅力 ・高校生までの医療費無料化などこども、子育てに優しい環境 ・造船業の活気、歴史的遺産、人情に厚く仲が良い住民性	・救急、小児科、整形外科などの医療体制の弱さ ・世代間交流や子育て世代の繋がりが薄く、まとまりに欠ける地域風土 ・中高生、若者が遊べる場所や自習室の不足と、魅力的な働き口の少なさ
西上浦	・海、山、川の豊かな自然環境と、美味しい魚、豊富な食材、魅力的なグルメ ・人情に厚く親切で温かい住民性と、良い意味でゆるく住みやすい環境 ・歴史的遺産や、造船業をはじめとする活気ある産業基盤の存在	・災害発生時の懸念と避難路、避難地の整備不足 ・産婦人科や小児緊急病院など、こどもや緊急時に対応できる医療体制の弱さ ・企業の少なさや雇用の不足による若者の流出と、交通、娯楽の便の悪さ
直川	・水、空気が美味しく自然環境に恵まれている ・食文化（魚、ラーメン等）のクオリティの高さ ・住んでいる人が優しく、こどもたちが挨拶をする人間性の豊かさ	・広大な市域による行政サービスや道路整備の遅れ ・若者が遊ぶ場所がなく大分市内へ流出、夜間の町の暗さ、寂しさ ・放置された空き家や廃屋、耕作放棄地の多さ
八幡	・水、地の野菜、魚など豊かな食材と高い食文化クオリティ ・自然が豊富で大きな災害が少なく、気候が良くて住みやすい ・高校生までの医療費無料など子育て・高齢者双方に優しい環境	・子育て世代の繋がりが希薄化、世代間交流の希薄さ ・害虫の大量発生、放置空き家や廃屋の多さ ・学生、若者の遊び場や遅くまで開いている自習室、就職先の不足
木立	・海、山、川、街が揃う豊富な自然コンテンツ、名水 ・市全体をカバーするコミュニティ協議会の強固な基盤 ・たけのこ等の農産物、海産物、美味しい食材の豊富さ	・こども、若者の減少、学校の維持、閉校に対する不安 ・娯楽施設（映画館、ボウリング場等）の不足、イベント重複 ・公共交通（鉄道、バス）の便の悪さ、乗り継ぎの難しさ
弥生	・山、川、海が揃う自然豊かな景観、番匠川の恵み ・ケーブル TV や FM さいき等の地域メディア資源の充実 ・こどもの医療費、給食費無償化などの手厚い子育て支援	・広い面積ゆえの行政効率の低さ、公共交通の利便性の低さ ・治水問題や自然環境の豊かさゆえの災害リスクの高さ ・若者の働く場やわくわくする娯楽施設、公園の不足
鶴岡	・伝統文化が多数残り、気候が温暖で住みやすい ・造船業や水産加工の活気、上岡駅（公民館一体型）のユニークさ ・若者が参画、挑戦できる企画や文化活動の芽生え	・高校統合や園児減少など、こどもの減少による地域維持の不安 ・１日過ごせるような場所の不足 ・防災面のキャパシティ不安 ・市外向けの PR 不足、PR の下手さによる観光地としての見せ方の課題

地域名	意見の特色	地域が抱える特徴的な課題
上浦	・小規模特認校の開校など特色ある教育環境 ・海と山が隣接する豊かな自然、城跡・歴史遺産 ・気候の良さと「食」の豊かさ	・若者の外への流出、魅力ある就職先の少なさ ・旧郡部と中心部との生活環境、医療、部活などの格差 ・前例のない取組に対する行政姿勢 ・空き家の増加
下堅田	・城山や歴史遺産、新鮮な魚、米、山の幸といった食の豊かさ ・他県からの移住者が多く活躍する、あったかくオープンな風土 ・海や川が綺麗で自然と人との繋がり、人情味が強い	・若い人が外に出ていき、若者が喜ぶ、魅力ある就職先がない ・近所付き合いの希薄化 ・駅前やアーケード通りの寂れ ・交通の不便さ
佐伯東	・佐伯駅周辺のアクセスや生活利便性、住みやすさ ・穏やかな気候、海、山、川の豊かな自然と良好な水質 ・親切で温かい人が多く、小学生、住民の挨拶文化が根付いている	・近所同士のつながり不足 ・こどもがのびのび遊べる広い公園や施設などの不足 ・津波避難場所のわかりづらさ ・地域間の差
上堅田	・ジビエ、魚など食べ物が豊富で安く美味しい ・まちづくりに頑張る人がいる ・造船、漁業、林業など資源が豊富で自然災害が少ない	・シャッター商店街の拡大、観光客の少なさや PR 不足 ・働く場所が少なく職種が限られるため若者が流出 ・市全体で物事に取り組むシステムや行政支援の行き届かなさ
宇目	・ユネスコエコパーク、ソボサンショウウオやカモシカなど貴重な自然 ・水、米、しいたけ、ジビエなどの美味しい特産品 ・木浦鉱山やキリシタン、伝統芸能などの深い歴史文化	・イノシシやシカの増大と狩猟者不足による深刻な鳥獣被害 ・離農や農地の荒廃、若い人が食べていける仕事、職場の不足 ・公共交通の便の悪さ、市域が広く行政支援が行き届きにくい点
大入島	・離島ならではの時間の流れがゆるやかな生活環境 ・新鮮な魚、すり身、柑橘類などの豊かな食資源 ・島一周できる観光ポテンシャル、人々が繋がりやすい風土	・フェリー等の交通不便さと高い乗船コスト（移動負担） ・島内に若者が働く魅力的な仕事や産業が少ない ・人口減少に伴う学校の減少、森林荒廃や害獣駆除の遅れ
鶴見	・新鮮な魚、水産業、養殖業が非常に盛ん ・城山からの絶景、美しい番匠川、海 ・こどもへの医療費免除などの先進的な取組 ・スポーツが盛ん、人情深く温かい人柄	・交通機関（道路、船、コミュニティバス）の利便性の悪さ ・広域な面積の十分な利用ができておらず、耕作放棄地も課題。 ・人口減少による地区行事の継続困難、若い働く場所の不足

地域名	意見の特色	地域が抱える特徴的な課題
蒲江	・リアス海岸の豊富な水産資源（魚・新鮮な魚介）、海の美しさ ・自然が豊かで海も山もあり、食べ物が美味しい ・人柄がよく、繋がりも濃い	・尾浦～波当津まで広範囲な「浦」の維持・移動の大変さ ・若い人材が働く場所の不足、高齢化による地区行事の停滞 ・公共交通の弱さ、気候変動による海水温上昇・不漁の不安

【中学生・高校生ワークショップで出た意見のまとめ】

①交通インフラ・生活移動分野：生徒の行動範囲を支える交通体系と道路環境

中学生や高校生にとっての最大の生活課題の一つとしては、「移動の不便さ」が多く挙げられました。「バスや電車の本数が極めて少なく移動に時間がかかる」「自転車頼みの生活だが、ガタガタして危険な道や暗い街灯が多い」「移動手段がないため休日のお出かけが制限される」といった切実な声が多数出されました。

これらを踏まえると、バス・電車の便数確保や運賃補助の検討に加え、通学路や主要道路の舗装整備、街灯の増設による夜間の安全性向上が求められています。また、自家用車を持たない学生層を対象としたタクシー利用補助やコミュニティ交通の充実など、若者の移動を保障する環境整備が求められています。

②子育て・教育・若者支援分野：若者が集える「第三の居場所」と魅力的な学び

こどもの医療費無償化や桜ホールの存在が高く評価される一方、中高生が気軽に行ける娯楽施設（映画館、ショッピングモール、カラオケ、ボウリング等）やカフェ、友達と放課後に勉強・交流できる自習室などの「放課後や休日の居場所」が不足していると指摘されました。また、市内での進学（専門学校や大学）の選択肢がないことも若者の流出要因として挙げられています。

これらを踏まえると、中高生が安心して放課後や休日に集えるサードプレイス（フリースペースや学習・カフェ機能を持つ空間）の創出が求められています。また、地元に専門学校や学びの拠点を誘致・整備し、若者が佐伯で夢を追い続けられる教育環境の拡充が求められています。

③産業振興・雇用・将来像分野：挑戦できる仕事の創出と将来の「受け皿」づくり

水産業や造船業など地場産業の強みを理解している一方で、「若者向けのお店や企業が少ない」「安くご飯が食べられる場所が少ない」「佐伯には働きたい魅力的な仕事がない」という不安が示されました。8年後の将来像として「若い人が働く場所がたくさんある」「若手が活躍しやすい企業や起業支援がある」など様々な産業に関する意見が挙げられました。

これらを踏まえると、既存産業の魅力発信（インターンや体験）だけでなく、IT・クリエイティブ・サービス業など若者が関心を持つ多様な業種の企業誘致や起業・創業支援を進めることが求められています。若手が主役となってチャレンジできる風土をつくり、「佐伯に戻って働きたい」と思わせる魅力ある雇用の選択肢を増やすことが求められています。

④観光・交流・地域イベント分野：若者発想の自然活用と「魅せる」イベント

佐伯市の豊かな海・山・川や美味しい魚・ラーメン、コスモタウンやイベントの多さを誇らしく感じています。しかし、「せっかくの素晴らしい自然をいかしきれていない」「市外や全国への PR が弱い」という課題も挙げられました。将来像として、海上アスレチックやグランピング、野外音楽フェスなど、若者や観光客がワクワクする体験型イベントの開催が提案されました。

これらを踏まえると、SNS 等を活用した若者目線での情報発信力を強化するとともに、豊かな自然資源をいかしたアクティビティや若者主体のイベント（フェスやスポーツ大会）を企画・開催し、地域全体の活気と交流人口の拡大を図ることが期待されています。

⑤情報発信・デジタル活用分野：SNS によるシティプロモーションと生活環境の利便化

市の魅力やイベント情報、地域の取組が「中高生や市外の若者に届いていない」という認知不足が課題として挙げられました。また、都市部と比べた店舗展開の遅さや、フリーWi-Fi・デジタル環境の不足、SNS を活用した広報の弱さに対する意見が挙げられました。

これらを踏まえると、若者が日常的に利用する SNS やデジタルツールを全面的に活用し、市の食・自然・イベントの魅力を効果的に発信する仕組みを構築することが求められています。あわせて、公共スペースや学習環境における Wi-Fi 環境の整備など、若者が利便性を実感できるデジタルインフラの拡充が求められています。

⑥地域コミュニティ・世代間交流分野：温かい繋がりと多世代で活力を生むまちづくり

「挨拶をすると返してくれる」「近所の人や親戚がお互いを支え合っている」「高齢者の方が元気すぎる」といった、佐伯市の人の優しさや温かいコミュニティに大きな安心感と愛着を持っています。一方で、少子高齢化でこどもの姿が減っていることが寂しいという声や高齢者の元気が地域の活性化につながっていないと感じる声もありました。

これらを踏まえると、高齢者と中高生・こどもたちが自然に触れ合い、交流できる地域イベントやボランティア活動の機会を増やすことが求められています。若者の柔軟な発想とシニア層の経験・元気を掛け合わせ、地域全体で次世代を応援し、共に街を盛り上げる協働の仕組みづくりが求められています。

【産業ワークショップで出た意見のまとめ】

①産業構造の高度化・地場産業支援分野：基幹産業の魅力の最大化と強靭な供給網の構築

世界規模で戦える技術力を持つ造船業や九州有数の養殖業・水産業、豊富な森林資源を背景とする林業など、佐伯市には強力な基幹産業が集積しています。しかし、一次・二次産業内での企業間連携の不足や原材料・仕入先の廃業による取引先の減少、商圏の狭さやコスト増加への対応が課題として意見が挙げられました。

造船業や水産・林業の既存サプライチェーンを強化し、例えば佐伯産材を活用したフェリー内装材のブランド化など、地場産業同士の横断的連携の推進が求められています。また、事業承継・創業支援策を拡充し、中小企業・個人事業主が持続的に成長・投資できる環境の整備が求められています。

②雇用創出・人材育成分野：専門スキルの向上と若者・女性・外国人が活躍できる環境

市内の産業界全体で深刻な人手不足や後継者不足が顕在化しており、特に大卒者や若者、女性が求める職種・キャリアの選択肢が少ないことが人口流出を招いていると意見が挙げられました。一方で、現場で働く人々の高い技術力や真面目さ、外国人就労者の増加は大きな潜在力と捉えられています。

若者が専門技能を習得できる専門学校の誘致・開設や、製造・水産・IT 等の最新設備導入・AI 活用教育を推進することが求められています。また、給与水準向上につながる高付加価値化支援や、子育てと両立しやすい柔軟な就労環境づくり、外国人材の生活・就労定着サポートを総合的に進めることが求められています

③観光・食・ブランド戦略分野：佐伯ブランドの再定義と「稼げる観光」の創出

豊富な魚種（350 種以上/年）や佐伯ラーメン、マリンレモンや美人ブリなどの高い「食」のポテンシャル、新町などの歓楽街や自然景観という素材がありながら、絶対的な目玉観光地や宿泊拠点が不足し、点から面への広がりや PR・ブランディングが弱いことが課題とされました。

佐伯湾の地形をいかした造船の試験場や大学のサテライトラボの誘致、クリエイティブな若者によるデザイン・ブランディング戦略の展開が求められています。また、新町エリアのリブランディングや体験型・合宿型観光の集客、市内生産品のお土産化・特産品開発を後押しし、市外・国外からの消費を取り込む「稼げる観光産業」への転換を目指すことが求められています。

④交通インフラ・物流・アクセス分野：広域物流網の整備とサステナブルな移動体系

空港からの距離や東九州自動車道・道路網の老朽化、公共交通機関の弱さが、人流・物流・企業の投資意欲を抑制する構造的な要因として挙げられました。一方で、外国船が入港・通関できる港湾施設や深い海という地理的利点は大きな強みと位置づけられています。

海上流通網の復活や通学・通勤コストを軽減する交通支援、タクシー・デマンド交通等と連携した市内移動網の再構築が求められています。また、企業活動の円滑化に向けた港湾・主要道路の継続的な整備・拡充が求められています。

⑤企業誘致・スタートアップ支援分野：企業立地の促進とスタートアップ窓口の創出

市外・県外からの企業の参入や新たな産業の立ち上げに対して、行政の相談窓口が多岐にわたり分かりにくい点や未利用地・空き店舗の活用公募制度が不十分であると意見が挙げられました。

創業や事業拡大、未利用地活用を一括してサポートするワンストップ型の相談窓口・サポート体制を構築することが求められています。また、既存の枠組みにとらわれない新しいチャレンジ（スタートアップやスモールビジネス）を税制面や補助金で後押しし、市外企業のサテライトオフィスや工場誘致を積極的に推進することが求められています。

⑥都市機能・行政支援・住環境分野：生活と産業が調和するコンパクトで持続可能なまち

自主財源の制限や広い市域のインフラ維持コストの増大、若いファミリー層に対する遊び場や教育・子育て支援の実感が薄いことが、市内に留まる動機（インセンティブ）を弱めていると意見が挙げられました。

子育て世帯や若者層の定住を促すため、インフラの選択と集中によるコンパクトシティ化を進めるとともに、日本一子育てしやすい町を目指した独自の支援策（住宅補助や給食費・医療費等）や遊び場整備を推進することが求められています。産業界と行政が強固な連携を築き、安定した財源確保と住みやすい環境づくりを両立させることが求められています。

【全体会_クロージングで出た意見のまとめ】

①子育て・教育・次世代育成分野：こどもを中心に据えた市政と多世代での豊かな学び

クロージングでは「こども中心の市政」や「こどもがいたい、戻ってこようと思うまち」を目指す意見が強く出されました。既存の小学校の統合を回避し維持することを望む声や、学校教育だけでなく地域全体での学び（歴史・伝統の継承）の重要性が示されました。

給食費・医療費等への子育て支援や補助金の継続・拡充を図りつつ、現状の学校規模や校舎の有効活用を考慮した教育環境の維持が求められています。また、地域の語り部（シニア層）と興味のある市民・こどもを繋ぎ、栂牟礼城などの歴史・文化資産を次世代に伝える仕組みづくりや多世代が集える教育・交流拠点の整備が求められています。

②歴史・文化・地域資源分野：地域の歴史・伝統芸能の継承と魅力の価値化

市内に残る伝統芸能や歴史的ストーリーを絶やさず継承していくことが課題として挙がりました。市外への観光 PR だけでなく、市民自身が地元の歴史や文化を深く「知る」体験や価値づけの不足が指摘されています。

地域芸能をこどもたちや新しい居住者に伝承する機会を創出し、地域コミュニティの誇りとして引き継ぐ取組を支援することが求められています。また、単に見るだけの観光から、歴史や文化体験をプラスしたプログラムを展開し、佐伯の豊かな恵みや歴史的文化の価値をさらに高めて市内外へ発信することが求められています。

③自然環境・保全・環境美化分野：海・山・川の恵みの保全と自然との共生

番匠川や海、城山などの美しい大自然を守り続けることが全体を通じて将来の佐伯市にとって特に重要な事項の一つであることが改めて確認されました。きれいな水を残す環境保全だけでなく、「美化活動（清掃・クリーン作戦等）」を継続することが自然を守ることにつながると主張されています。

市民・行政が協力してクリーン作戦や河川・海岸の整備活動を継続し、環境美化の意識を高く維持することが求められています。海・山・川を教育や体験型観光に直接いかすとともに、ユネスコエコパーク等の豊かな自然資源を壊さず、自然と人が調和した暮らしを次世代へ引き継ぐことが求められています。

④産業振興・地場企業・創業分野：地場産業の魅力の活用と新たな挑戦・創業の支援

造船業や漁業・養殖業・農林水産業の活性化と所得向上、地場の名店や居酒屋・商店街が元気に存続することが熱望されました。雇われるだけでなく「自ら創業・起業する」選択肢や、スタートアップ企業を支援する体制、労働者が満足して働ける環境づくりが求められています。

造船や水産などの基幹産業の技術力を高めて利益をしっかりと確保できる体制を支援するとともに、陸上養殖などの新分野における人材を育成することが求められています。

⑤交通インフラ・移動支援・住環境分野：誰もが移動に困らず安心して暮らせるまち

広大な市域における買い物や通院など移動手段の確保が切実な課題として挙がりました。徒歩圏内での生活完結やライドシェアなどの導入、遠方通学者のための寮やスクールバスの充実、夜間の街灯設置など安全面への配慮が求められています。

デマンド交通やライドシェア、コミュニティバスの充実により、買い物や通院に不便を感じさせない移動支援網を再編するほか、道路整備や街灯の増設を進め、住んでいる場所に関わらずすべての市民が安全・快適に暮らし続けられる住環境を整備することが求められています。

⑥交流人口・関係人口・定住促進分野：佐伯の魅力発信とお試し移住・ファンづくり

人口減少を単に恐れるのではなく、「一度出て行った人が帰ってくる」「市外から関わり続ける関係人口を増やす」取組の重要性が示されました。お試しＵターン・Ｉターンやリゾートバイトの活用、ネット・SNS を通じた発信強化が提案されました。

佐伯市の食や自然、歴史の魅力を SNS や Web を駆使して力強く発信し、市外・県外からのファンや観光客を引き寄せるほか、お試し移住制度やリゾートバイト等の受け入れ体制を整え、段階的な移住・定住や持続的な関係性の構築を促進するオープンなまちづくりの推進が求められています。

⑦防災・安全安心・まちづくり分野：災害に強く平和で穏やかな暮らしの実現

日常的な穏やかさや暮らしやすさが評価される一方で、地震や豪雨などの自然災害に対する不安や防災意識の高さが示されました。へき地や周辺地域の孤立化を防ぎ、災害に強いまちづくりを求める声が多く見られました。

防災設備の充実やインフラの防災強化、老朽化対策を計画的に実施するほか、地域ごとの避難体制の強化や草刈り・防災活動を通じた地域の助け合いを促進し、いざという時にも市民の命と暮らしを守れる安全で平和なまちづくりが求められています。

⑧地域コミュニティ・世代間交流分野：三世代の繋がりと多世代で支え合う対話のまち

「三世代交流」「人との繋がり」「おじいちゃん・おばあちゃん・こどもに優しい街」など、市民同士の対話や温かい人情を大切にしたいという強い思いが集まりました。世代を超えて集まれる場所や機会の不足も指摘されています。

市民が自由に集まり、和気あいあいと地域について話し合える対話の場が求められています。祭りや地域の共同作業（草刈り・防災等）を通じて世代間交流を深め、お互いを思いやり支え合える「三世代交流（繋がり）」を核とした温かい地域社会を目指すことが求められています。

Ⅲ　全体的なまとめ

①産業振興・雇用創出・地場企業活性化分野

水産業や造船業、農林業など全国に誇る基幹産業や豊かな食材・技術力がある一方、若者や女性、大卒者が希望する職種の選択肢が少なく、進学・就職時の市外流出や深刻な人手不足・後継者不足が続いています。また、事業所の老朽化や原材料コスト高、企業間連携の弱さも課題です。

造船・水産・農林業のサプライチェーン強化や高付加価値化（新ブランド開発や６次産業化）を強力に推進することが求められています。スタートアップ・起業支援やワンストップ型の相談体制を構築し、新規事業や若手が挑戦できる環境を創出することが求められています。企業誘致やサテライトオフィスの導入を進めるとともに、給与水準向上や多様な働き方の推進により、若者が「佐伯で働き、暮らし続けたい」と思える雇用環境の整備が求められています。

②交通インフラ・生活移動・都市整備分野

九州一の広い市域において、自家用車がないと買い物や通院・通学が困難であることなど、「移動支援」が最重要課題の一つとして全世代から挙がりました。路線バスの減便や鉄道の少なさ、通学路の危険箇所や夜間の街灯不足、島しょ部・沿岸部における交通アクセスの維持が深刻です。

デマンド交通やAI・自動運転、ライドシェア、コミュニティバス、スクールバスなどを活用した柔軟な運行体系を再編・構築し、全域での「移動の手段」の確保が求められています。道路・街灯整備やバリアフリー化を進めるとともに、中心市街地のコンパクト化と各地域コミュニティ間のネットワーク強化を図り、持続可能で快適な都市基盤の構築が求められています。

③子育て支援・学校教育・次世代育成分野

医療費無償化等の充実した子育て支援や自然環境が評価される一方、こどもや中高生が放課後や休日に過ごせる屋内外の全天候型遊具・娯楽施設・サードプレイス（自習室やカフェ）の不足が指摘されました。また、こどもの教育の保障への不安や、市内に高等教育機関（専門学校・大学）がないことによる若年層の流出も課題です。

「いつも こどもが まんなか」の市政を軸に、子育て世代への経済的・精神的支援を拡充し、安全で魅力的な遊具・全天候型広場や中高生が集える居場所を整備することが求められています。地域に専門学校や学びの拠点を誘致・開設し、学校跡地や地域資源を活用した特色ある教育と郷土愛（歴史・伝統の伝承）を育む総合的な次世代育成環境の整備が求められています。

④保健・医療・福祉・包括ケア分野

元気な高齢者が多いという強みがある一方、少子高齢化や単身高齢者の増加に伴い、日常の買い物や通院、身近な見守りに対する不安を抱えています。特に、夜間小児医療や救急体制、専門医の不足、周辺地域における医療アクセスの格差が大きな懸念となっています。

高齢者の健康寿命を伸ばす予防活動や軽スポーツ、お茶の間サロンの拡充を支援し、生きがいを持って暮らせる環境を整えることが求められています。地域包括ケアシステムを強化し、小児医療を含む夜間・救急医療体制の安定的な維持や、障がいのある方も含めた誰もが地域で安心して暮らし続けられる包括的な福祉体制の整備が求められています。

⑤歴史・文化・観光・地域魅力発信分野

豊富な魚介類や佐伯ラーメンなどの高い食文化、城下町の歴史や各地域の伝統芸能（地踊り等）、美しい海岸線や山林などの観光素材に恵まれながらも、「観光地が分散している」「点から面への周遊性が弱い」「PR やブランディングが不十分」といった課題が挙げられました。

佐伯の「食・自然・歴史」を融合させた新たなブランド戦略を展開し、SNS や Web を活用した若者・外国人向けの強力な情報発信を実施することが求められています。体験型観光やスポーツ合宿の誘致、新町・なかまち商店街などのエリア再開発を進めるとともに、地域の伝統芸能や歴史資産をこどもたちへ継承する取組を支援し、国内外からの交流人口・関係人口の拡大が求められています。

⑥自然環境・環境美化・SDGs 分野

番匠川や佐伯湾、米水津・蒲江の海、山々やユネスコエコパークに代表される豊かな自然環境ときれいな水は市民最大の誇りですが、休耕田や竹林・山林の荒廃、海洋環境の変化、美化作業の担い手不足が懸念されています。

地域ぐるみでクリーン作戦や河川・海岸の整備活動を継続・強化し、市民・事業者・行政が協働して自然環境を守る体制整備を進めるとともに、農地や山林の適切な保全・活用（オーナー制度や環境保全活動）を進め、脱炭素や地産地消を取り入れた持続可能な自然共生型のまちづくりが求められています。

⑦防災・減災・安全安心分野

台風や豪雨、津波、南海トラフ地震への防災意識は非常に高く、沿岸部での津波到達時間の短さや山間部での「集落孤立化」のリスクなど、地理的条件に応じた切実な課題が示されました。

避難路・高台避難場所・避難タワーや備蓄倉庫の整備など、ハード面の強靭化を進めるとともに、老朽化インフラの更新を計画的に実施することが求められています。消防団や自主防災組織の育成、こどもから高齢者までの防災教育を強化し、地域内の共助と通信・移動手段の二重化による災害に強いまちづくりの推進が求められています。

⑧地域コミュニティ・協働・共生社会分野

人情の厚さや温かい挨拶、お互いを支え合う地域性が佐伯市の最大の強みである一方、地域の役員やリーダーの後継者不足、近所付き合いの希薄化、行政との対話の場の不足が指摘されました。また、増加する外国人住民や移住者との共生もテーマとなりました。

各地域のコミュニティ協議会への財政・人的支援を強化し、自由度の高い地域支援交付金の創出や地域担当職員の協働体制を確立することが求められています。多世代や外国人住民、移住者がフラットに集い対話できる場（サロンやコミュニティ拠点）を拡充し、三世代の繋がりと助け合いの循環を核とした「全員参加型の温かい地域社会」が求められています。

⑨全体総括

全 23 回におよぶワークショップは、中高生から高齢者、産業界まで、多様な市民の「生の声」を直接聴く貴重な機会となりました。

全てのワークショップに共通して、「佐伯市の自然・食・人・歴史に対する深い愛着と誇り」であると同時に、「広大な市域ゆえの交通不便」「少子高齢化と若者の流出」「基幹産業の将来不安」に対する切実な声が挙げられました。